

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立 巨勢小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童 68名

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「**どちらか言えば当てはまる**」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
(12)学校に行くのは楽しいと思う。	↓ 76.1 %	86.5 %
(7)将来の夢や目標を持っている。	↑ 85.1 %	83.1 %
(5)自分には、よいところがあると思う	↓ 74.6 %	86.9 %
(35)学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	↓ 76.2 %	84.9 %

「将来の夢や目標を持っている」の項目は、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高い結果が出ています。一方で、「学校に行くのは楽しいと思う」、「自分には、よいところがあると思う」、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目では、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
(17)学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。①「3時間以上」	3.0 %	12.1 %
②「2時間以上、3時間より少ない」	17.9 %	12.8 %
③「1時間以上、2時間より少ない」	35.8 %	29.1 %
④「30分以上、1時間より少ない」	23.9 %	27.4 %
⑤「30分より少ない」	13.4 %	12.9 %
⑥「全くしない」	6.0 %	5.7 %

本校の6年生児童の家庭学習について、①の3時間以上と回答している割合は全国平均を下回っているものの、1日平均1時間以上3時間未満しているという②③の回答の割合は、全国平均をほぼ上回っています。一方で、城東中校区では、6年生の家庭学習時間は1時間をめやすにしていますが、本校では家庭学習の時間が1日1時間より少ないという児童の数が④⑤⑥から43.3%で29人程度いることが課題と言えます。中には全く家庭学習をしていないと回答した児童もいました。

(2)改善に向けての取り組み

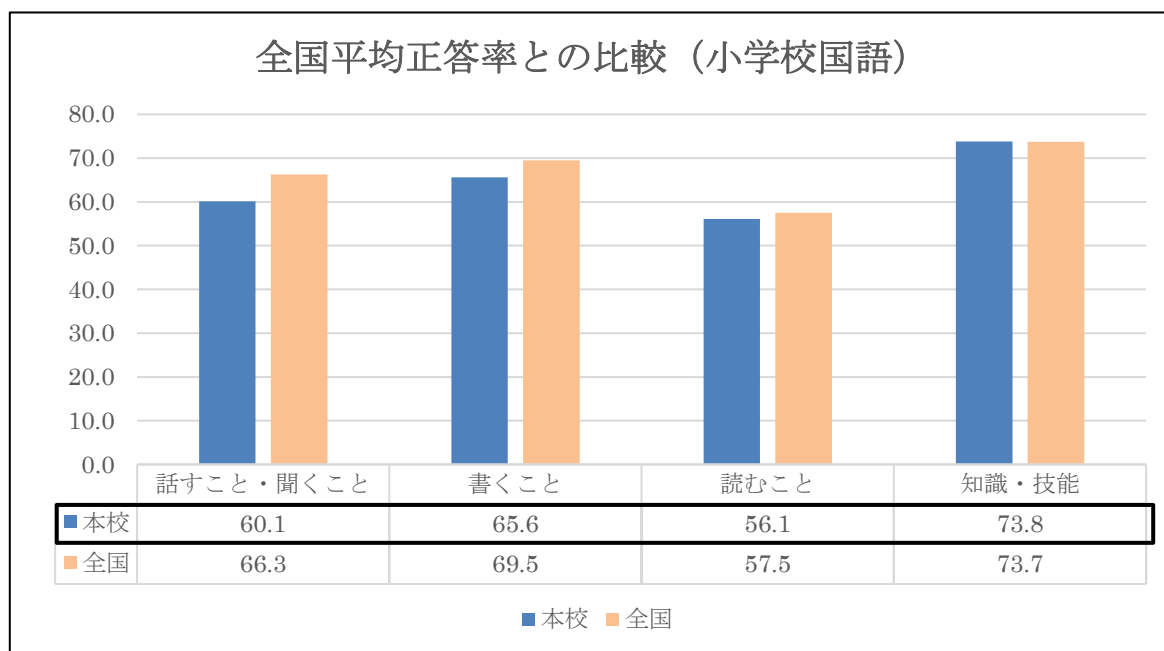
【学校では…】

- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるような授業づくり、学習活動の設定を進め、職員一丸となって実践していきます。
- 様々な学習場面において、自分で考え、自分で決め、自分で行動に移す力を育て、自立を促します。活動の中で課題解決のために、自分に合う学び方やペースを選択できるような場の工夫に取り組みます。
- 互いを認め合う場面を増やし、落ち着いて学習や生活ができる学級づくりを進めます。友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深め、新たな考え方に気付くことができるようにしていきます。

【家庭では…】

- 佐賀市学校教育ビジョンにある「尊重」の力を育むためには、子どもが困っている時に、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたははどうしたい？③何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 1学期に配りました佐賀県教育委員会作成「家庭学習の手引き」等を参考に、現在の家庭での学習時間をふり返り、適切な学習時間の設定、学習の進め方などを子どもと一緒にふり返ってみてください。何をどのくらいするのかを子ども自身に決めさせ、学習が進み継続できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結 果

全体的に全国平均をやや下回る結果でした。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、全国平均正答率5ポイント近く下回っています。しかしながら、無解答率は、全国平均よりも低く、多くの問題を最後までがんばって解いていることが分かります。一方で、「知識・技能」については全国平均正答率をわずかながら上回る結果となりました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」全国平均を 0.1 上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段の漢字や言葉の学習などの成果が表れていると考えます。課題としては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率を上げることです。どちらも苦手にしている児童が多くいるということになります。主体的な学びの視点での授業改善を図っていく中で、進んで話したり聞いたりする活動を取り入れたり、自分の考えやふり返りなど書く場面を多く取り入れたりすることで、児童の表現力や記述力を高めていきます。このことが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えます。

(3) 学力向上のための取り組み

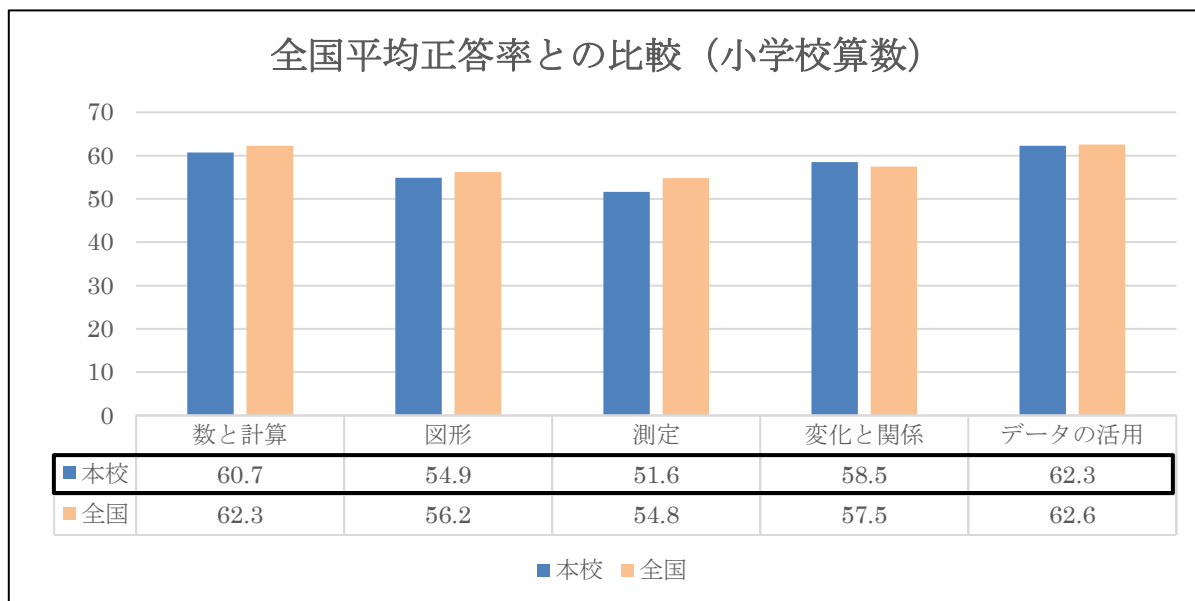
【学校では…】

- 子どもが主体的に学べるように、授業づくりを工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が協動的に学習を進めながら、内容がしっかりと定着していくようにします。
- 学習活動の目的や意図を明確にして、自分の考えやその理由を書く機会を増やしたり、インタビューや紹介活動に取り組みせたりするなど、日常生活につながる学習場面を設定します。

【家庭では…】

- 音読を大切にしてください。音読にしっかり取り組むことで、子どもは文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができます。すらすら読めることは、すらすら理解が進むことにつながります。子ども達がどのくらい話せて、読めて、聞くことができるか把握し、励ましてください。
- 読書を大切にしてください。物語（小説）・科学・歴史・地理、絵本…と、多くの種類の本を読み、様々な表現や用語に触れることで、子どもは「読む」を楽しめるようになり力がつきます。子どもの読書習慣をつけていくために、保護者は一緒に本を選んだり読んだりするのがおすすめです。

3 算数(数学)



(1) 結果

全体的にはほぼ全国平均と同等の結果でした。その中で「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均と同等かやや上回っています。一方で「数と計算」「図形」「測定」の領域で全国平均をやや下回っています。無解答率を見ると、だいたいの問題で全国平均より低くなっており、学校の授業や取り組みの効果がある程度出ており、子ども達が最後まで粘り強く問題解決にあたることができていると言えます。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「CⅡ変化と関係」領域の「10%増量した内容量が増量前の何倍かを求める」問題や「D データの活用」領域の「棒グラフの読み取り」や、「ある量が空になるまでの過程について正しい項目を選択する」問題などで正答率が全国平均を上回っていました。一方で、「A 数と計算」領域の「分数の足し算」、「小数の足し算」、「必要な情報を選び取り正しい式と答えを書く」問題や、「B 図形」領域の「ある辺が伸びた際にできる図形の角の大きさ」、「五角形を2つの図形に分けてそれぞれの面積の求め方を書く」問題の正答率が全国平均を下回っていました。

今後、基本的な計算問題が正しく解くことができること、また、図形の意味や性質を理解した上で問題解決を図ること、問題解決までの過程を算数の式や言葉を用いて自分の言葉で説明することができるようにすることが重要であると考え、そのための取り組みを進めていきます。

(3) 学力向上のための取り組み

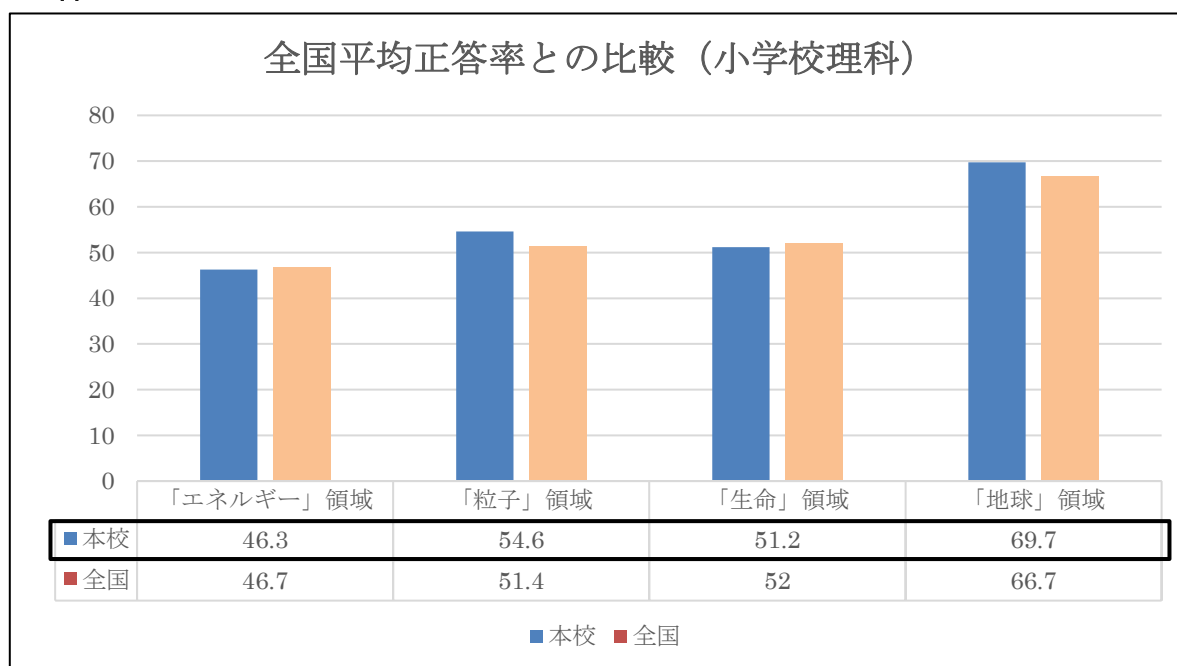
【学校では…】

- ただ計算問題を解くだけではなく、どうしてその式になるのか式の意味を考えさせたり、式に合った問題を作らせたり、求め方を説明したり、また、生活場面での算数の問題の活用を想起させるなどして、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 自分の考えを広め深めるために、グループで意見を出し合うような活動を取り入れます。また、自分の考えを式や言葉を使って、順序だてて説明を書く機会を増やし、記述力向上に努めます。
- 一人一台端末を活用して、現在の学年だけでなく、前学年までの復習ができるようにします。

【家庭では…】

- 家庭学習の充実のためにも、子どもがしているドリルやプリント、返却されたテストの様子や内容をご覧になって、子どもの学習の状況を見取り、たくさん称賛や励ましの言葉をかけてください。
- 算数が好き、得意になるには、「学習したことが生活の中で使えた！便利だな！おもしろいな！」と思う経験が有効です。生活場面で使える算数を見つけて一緒に取り組んでみてください。例えば、「おかしを分ける時にわり算」、「調味料の重さ」、「風呂の水のかさ」「買い物で何がいくつまで買えるかを暗算」、「家の中で図形探し」など、身の回りにあるものを、算数を使って考えてみましょう。

4 理科



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等か上回る結果でした。特に、「粒子」領域と「地球」領域では、全国平均の正答率を大きく上回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっていて、どの問題も最後までしっかりと取り組むことができていると言えます。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「粒子」領域が 3.2 ポイント、「地球」領域が 3.0 ポイント全国平均の正答率を上回っていました。特に、「粒子」領域の「海面水位の上昇について水の温度による体積変化を根拠に予想しているものを選ぶ」問題の正答率が全国平均を 11.2 ポイント上回りました。また、「地球」領域の「水が陸から海へ流れていくことについて水の行方と関連付けているものを選ぶ」問題の正答率も全国平均正答率を 8.0 ポイント上回りました。一方で、「エネルギー」領域の「電磁石の磁力を強めるためのコイルの巻数の変え方について記述する」問題では、全国平均正答率より 5.9 ポイント下回りました。また、「生命」領域の「ヘチマの花粉を顕微鏡で観察する時の適切な像にするための正しい操作を選ぶ」問題では、全国平均の正答率を 4.7 ポイント下回りました。今後は、日々の授業で説明する活動、説明を書く活動を継続して取り入れていきます。さらに、どの実験観察も全員が確実にを行ったことを確かめ、学習内容の理解を図っていくことが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では…】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題提示→予想→実験・観察→結果→考察→さらなる課題…」として、一貫した学習指導を行うことで、児童の思考力、判断力、表現力の向上を目指します。
- 様々な見方や考え方ができるように、2人組やグループでの協動的な学習活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を順序だてて書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 一人一台端末で動画や写真に記録、比較するなど、どの子も意欲的に取り組めるようにします。

【家庭では…】

- 理科が好き、得意になる場合も算数と同様で、「習ったことが生活の中で使える！便利だな！おもしろいな！」という経験が有効です。例えば、星空を見て星座の話をしたり、窓の結露の理由を考えたりすることで、日常の現象を不思議に思えるようになり、学習内容と現象を結びつけるようになり、自然と興味関心が高まり、内容理解が深まることにつながります。一緒に考えてみてください。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などへ一緒に行ってみると興味関心が向上につながります。